2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
教育学部 子ども発達学科	教授	西崎 有多子
最終学歴	学　位	専門分野
コロンビア大学大学院修士課程修了	MA	英語教育

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

現在の英語教育、特に小学校英語教育を理論・実践の両面から理解し、その目標を達成できる教員養成に寄与する。特に、児童の毎日の生活や体験を通して、教科書の中の英語ではなく実生活に即した学びを常に考えながら児童の実態に合わせた指導ができる教員養成する。

（目標）

3・4 年生での各学生の希望する将来を見据えた活発なゼミ活動、ならびに全学共通科目の英語科目における学生の英語に関する興味関心と自発的学修意欲向上。

（方針）

学生一人ひとりが、しっかりと自己分析をした上で自らの将来に対して何をすべきかを把握し、自主的に前進するための必要なアドバイスを行なう。英語に関しては、色々な言葉や表現を簡単な英語に置き換えて表現できる英語力を養い、英語を身近なものとできるようにする。

（計画）

ゼミ内の学生同士（3・4 年も含め）の交流を活発に行い、全員が初等教育コースに所属しているため、小学校教員を想定した指導を多角的・実践的に行う。具体的には、教職に就いているゼミの先輩学生たちとの交流を計画。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

英語Ⅰ、英語Ⅲ、小学校英語、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

英語Ⅱ、英語Ⅳ、基礎英語ⅡC、小学校英語教育法、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

専門演習のメンバーは 3・4 年生共、初等教育コースの学生であるため、主に小学校教育についての諸問題を取り上げた。英英辞典の活用も含む英語力向上、小学校英語における実践的な教材活用の体験等に加えて、ゼミの先輩で川崎市で 4 年間教諭をした後、今年度から愛知県に再就職して東海市で教諭をしている現職教員とオンラインで詳しい情報交換を行うことができた。教育実習前には、実習に役立つであろう資料の作成、短時間でできる英語のゲームの練習等も行った。教員採用試験対策としては、先輩が受験した実問題のコピーを使用して、出題傾向を調べたり、英語の問題については、多くの問題に挑戦し、疑問点の解消に努めた。実際に、愛知県の教採問題に既に指導済みの内容が出題され、学生たちはそれらは「楽勝だった」と喜んでいた。

英語科目については、例年通り、教科書と英語のことわざの他、最新の海外のニュース等にも振れ、視野を広げて知らない英語も読んでみるという姿勢を持てるように指導した。学生からは、幅

広い知識が学べたとの感想が多くあった。

○作成した教科書・教材

上記のような教育実践において、補助的プリントや教材をその都度数多く作成して使用した。

○自己評価

ゼミからの教員採用試験結果は、延べ４名が合格した。他に教職浪人をしていた学生にも希望によりオンラインで面接練習を行ない、希望する愛知県で合格を果たしてくれた。具体的な受験対策は、主として特講で指導を受けているが、特講以外の学生の学生たちも受験をし、講師として勤務することも多い。ゼミ内での小学校教育についての問題点等を多角的に取り上げて、活発に意見交換をすることにより、学生たちの意欲と問題意識の向上等に寄与できた。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

小学校英語に関する研究、小学校教員に必要な英語指導力、ならびに本学における英語教育に関する研究

○目標・計画

（目標）

小学校英語に関する研究と本学の学生に適した英語学習・小学校英語指導法の開発を行う

（計画）

新学習指導要領に即した新しい小学校英語の在り方について研究する。特に、実際に使える英語、自発的な内容を尊重する英語にふさわしい小学校英語教育とは何かについて具体的な提案ができるようにしたい。一人ひとりの模擬授業の事前事後を有効に活用し、本学の学生に適した英語教育ならびに教職課程における小学校英語の指導についてより改善に努める。各自が行う模擬授業等に対して、学生同士の意見交換を活発に行い、教員からはより実際の英語使用に繋がる例を挙げ、指導法の改善に対する意識を高める。

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・藤田利久・青木雅幸・西崎有多子・森久子『改訂新版 英語で学ぶオフィスコミュニケーション』西文社、2019 年、第 11 章・第 12 章担当、共著

・西崎有多子・鈴木由季子・久保田香直・加藤拓由・山田幸子・岡井崇・藤田しおり・鷹巣雅英・清水万里子・山下桂世子（以上執筆者）、川村一代編著『1 日 10 分　語彙・表現がしっかり定着！小学校外国語アクティビティ 50』明治図書、2019 年 2 月、アクティビティ 9・14・21・29・35 担当、共著

・今津孝次郎・西崎有多子・白井克尚・中島弘道・新實広記・伊藤龍仁・柿原清治・伊藤数馬『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』地域創造研究叢書 No. 30、唯学書房、2019 年 2 月、113 頁の内、第２章担当、共著

・小学生のための英語教育研究グループ著『英語好きな子に育つたのしいお話 365』誠文堂新光社、2016 年 12 月、416 頁の内７頁（７編）を担当、共著

・西崎有多子『国語と英語の連携を意識した授業を考えるー小学校におけることばの教育の相乗効果をめざしてー』三恵社、2016 年 3 月、170 頁、単著
・西崎有多子・古市久子・金澤延美・加藤拓由・藤重育子『ことばでつなぐ子どもの世界』地域創造研究叢書 No.25、唯学書房、2016 年 3 月、137 頁の内、第 6 章担当、共編著

(学術論文)

・西崎有多子・山本かほる「小学校における「資質能力目標」明確化による授業改善ー“この授業で何ができるようにするか”に着目して国語と英語を考えるー」『東邦学誌』2019 年 6 月、第 48 巻、第 1 号、pp.91-104、共著 URL: https://aichi-toho.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=568&item_no=1&page_id=13&block_id=21
・西崎有多子「小学校教員養成課程における授業実践に必要な英語力の養成―次期学習指導要領を踏まえたアクティブラーニングをとおして―」『東邦学誌』2018 年 12 月、第 47 巻、第 2 号、pp.119-125、単著
・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」への段階的学びを考える―苦手意識の克服と指導時の不安軽減をめざして―」『東邦学誌』 2017 年 12 月、第 46 巻、第 2 号 pp.69-77、単著
・西崎有多子「小学校英語を指導する際に押さえておきたいポイント―小学校教員養成課程における限られた条件の下で―」『東邦学誌』2016 年 12 月、第 45 巻、第 2 号 pp.25-36、単著
・西崎有多子「ネーミングの工夫からことばへの気付きへと発展させる指導ー小学校におけることばの教育の一案としてー」『東邦学誌』2015 年 12 月、第 44 巻、第 2 号 pp.1-11、単著

(学会発表)

・西崎有多子「小学校英語における paraphrase（言い換え）活用の可能性」小学校英語教育学会、第 19 回小学校英語教育学会北海道大会（全国大会)、北海道科学大学、2019 年 7 月 21 日、単独
・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」のアクティブラーニングを考える―教材の世界から一歩踏み出し、自分らしく楽しく創造する―」小学校英語教育学会、第 18 回小学校英語教育学会長崎大会（全国大会)、長崎大学、2018 年 7 月 29 日、単独
・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」への段階的学びを考える」小学校英語教育学会、第 17 回小学校英語教育学会兵庫大会（全国大会)、神戸市外国語大学、2017 年 7 月 30 日、単独
・西崎有多子「小学校で英語を教える際に押さえておきたい英文法―小学校教員養成課程の限られた条件の下で―」小学校英語教育学会、第 16 回小学校英語教育学会宮城大会（全国大会)、宮城教育大学青葉山キャンパス、2016 年 7 月 24 日、単独
・西崎有多子「小学校外国語活動と小学校英語教科化への今とこれから」日本メディア英語学会、中部地区第 67 回研究例会、愛知大学名古屋キャンパス、2016 年 7 月 9 日、単独
・西崎有多子「国語と英語の連携を意識した授業を考えるー小学校におけることばの教育の相乗効果をめざしてー」中部地区英語教育学会、第 46 回中部地区英語教育学会三重大会、鈴鹿医療科学大学白子キャンパス、2015 年 6 月 26 日、単独
・西崎有多子「商品のネーミングからことばへの気付きに導く指導ー小学校における国語、英語、外国語を連携させてー」小学校英語教育学会、第 15 回小学校英語教育学会広島大会（全国大会)、広島大学東広島キャンパス、2015 年 7 月 26 日、単独

(特許)　なし

(その他) なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

小学校英語教育学会、日本児童英語教育学会、大学英語教育学会、中部地区英語教育学会

○自己評価

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

教務委員、初等教育コース責任者として、職責を果たす。

（計画）

教務関係の事項に精通し、主に教育学部の教務関連事項に問題が起きないよう、常に配慮する。初等教育コースの運営について、教育実習（小学校）をはじめとする、教職課程の諸問題に対応する。

○学内委員等

幼小教職課程・保育士養成部会、教務委員会

○自己評価

概ね役割を果たすことができた。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

学会やその他の研究会や勉強会における貢献。

（計画）

コロナ禍で学会もオンライン、現場での研究授業もなくなり、新学習指導要領下での現状把握が難しいが、充実した内容を提供したい。

○学会活動等

特になし

○地域連携・社会貢献等

特になし

○自己評価

コロナ禍でもあり、全体としては、あまり貢献できなかった。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

コロナの影響でほとんどすべての学会がZoom開催になっており、発表内容も低調である。小学校現場は、ICTが導入されてはいるが、市町村、教育委員会、各教員により、その度合いや使用しているOSやタブレット、ソフトの種類も異なり、自らの研究ならびに学生に対する指導の上で、戸惑いが生じており、情報が得にくい状況にある。可能な限りオンライン学会等に参加し、身近な小学校関係者と連絡を取りながら、研究を進めていきたい。

Ⅵ　総括

コロナの感染対策を行いながら、すべての授業を対面で行なったが、学生同士の活動等も制限され、色々な実践が制限された。ゼミも研究室における指導ができず、学生との関係も教員同士の関係も、コロナ前よりも希薄になってしまったように感じ、とても残念だった。研究面でも、小学校の研究授業への参加も全くできず、現場の状況が掴みにくい中での限られた情報収集しかできなかった。

以　上